

他競技でも金続出！！



無敵の女王寺川は、今大会背泳ぎで3冠を獲得した



危なげない試合運びで金メダルを獲得した吉田

大成功に終わった日本代表

11日間に渡り熱戦が繰り広げられた第23回ユニバーシアード競技大会(トルコ・イズミル)。男子200mバタフライの松田(中京大)の銀メダル獲得から始まったメダラッシュはサッカー男子の金メダル獲得までずっと絶える日はなかった。結局、日本選手団は合計56(金18、銀18、銅20)個のメダルを携え、帰国した。総メダル数では北京大会(2001年・53個)を上回り、国外開催ユニバーシアード史上最高の成績となった。

開幕前夜のサッカーの勝利から神風は日本に吹いていた。初日、松田(中京大)の銀で波に乗った競泳陣は大会3日目に寺川(近大)が女子50m背泳ぎで日本チーム初の金メダルをもぎ取った。しかし、主将・柴田(鹿野屋体育大)の不調は残念。

また鹿嶋・冨田(両選手・順大院)が牽引した体操男子は団体で金。ユニバでアテネさながら、栄光の架け橋を再現した。二人(鹿嶋、冨田)がいると心強い。と兼原。実力・メンタル面でもチームを支えた。女子レスリング・フリースタイルでは金4、銀1、銅1とメダルを量産。吉田(総合警備保障)、伊調(中京大)をはじめとするアテネ組を含めた、6選手がメダルを獲得。開会式で騎手を務めた55kg級の吉田は、ファイナルでアテネオリンピックで戦ったことのある選手と対戦。「相手は守りだけだとわかっていたので攻めました」と吉田。序盤、積極的に手を出し相手の足を取るように思うように試合をさせてもらえなかったが、そこはさすがオリンピックメダリスト。疲れがみえ始めた相手に何度も効果的なタックルを決め勝利を納めた。これで

各国メダル獲得数

1位	ロシア	金 26	銀 16	銅 23
2位	中国	金 21	銀 16	銅 12
3位	日本	金 18	銀 18	銅 20
4位	ウクライナ	金 18	銀 16	銅 18
5位	アメリカ	金 17	銀 12	銅 14

対外国人連勝記録をまた伸ばした。伊調は「研究されてここの手のうちが」と言う通り、攻めの糸口を見つけられずポイントを取れる一方、敗退の二文字が見え隠れする様な危ない試合展開。だが、冷静な伊調がピンポイントタックルを積み重ね、終盤に逆転勝利した。試合後、「ほっとしています」と満面の笑みで優勝の喜びを語った。オリンピックメダリストなどいわば国際大会ベテラン勢にとってはプレッシャーは相当のものであったようだ。新人、ベテラン関係なく国際大会でこれだけの活躍は大成。今後目標は、今年の世界選手権で金メダル。これからは無敗記録を続けること(吉田)。すでに、アスリートたちの視線は2年後のユニバーシアード大会、そして、北京オリンピックに向けている。(荒川好和)

なでしこは銅メダル

前大会、決勝で北朝鮮の前に涙を呑んだ女子サッカー代表チーム。

今大会では、サッカー界初の女性代表監督として**本田美登里**監督が選ばれるなど大会前から注目を集めた。フランスなど女子A代表でも強豪と呼ばれるチームを相手に、1勝1分で予選リーグ、準々決勝カナダ戦を3-1と文句ない成績で勝ち上がると、準決勝では王国ブラジル。

前半で2点のビハインドを許す苦しい展開に**本田監督**は攻撃的な選手を次々と投入し、勝負に出るが逆にカウンターからブラジルに2点を追加され、万事休す。前大会の雪辱はならなかった。

しかし「何もなしでは帰れない」とキャプテン**庭田**が語るように選手たちには、なでしことしての誇りがあった。

メダルをかけて挑んだ3位決定戦ではA代表でもお馴染みの**近賀**のゴールなどでフランスを2-0で破り、意地の銅メダルを獲得した。



最後は大喜びで記念撮影に応じたなでしこJAPANの選手、スタッフたち。次回タイ・バンコク大会では悲願の金メダルを掲げて欲しい